農村の課題、国境を越え検討

カナダ農村リーダーが村を訪問

▲村長と対談し、研修するリーダーたち

日本とカナダ両国政府では、平成10年より農村活性化をテーマに共同研究を進めています。その日本側の代表となっている本村ですが、その研究の一環として、今回カナダ農村リーダーとの交流会が11月18日から20日までの３日間村で行われ、カナダの農村リーダーら８人が村を訪問し、両国の農村の抱える農村の課題などについて研修を行いました。

村では、平成14年度に村長はじめ関係者がカナダを訪問した際、明るい笑顔で迎えられ交流を行ってきました。

３日間、村に滞在したリーダーたちは、村の行政の仕組みや日本の農業についての説明を聞いたり、農家や幼稚園・小学校、民間会社を訪ねたりして実際に現地を視察し、村の現状や自国との違い、共通点などを学んでいました。

また、期間中は村内の家庭へのホームステイも行われ、リーダーたちは住民との暖かい心の交流も深めていました。

飯舘牛を給食に

消費拡大・地産地消の取り組み続く

▲牛肉を玉ねぎやキノコと煮込んだ「ビーフストロガノフ」が給食に出た12月16日、飯樋幼稚園の子供たちはご飯の上にかけられた料理をおいしそうに食べていました。

村が牛肉の消費拡大・地産地消を目的に、学校給食に飯舘牛を使う取り組みが続いています。

平成13年に発生した牛海綿状脳症「ＢＳＥ」。落ち込んだ牛肉の消費を取り戻そうと、当時村では「安心・安全キャンペーン」を開催。その時に村の補助で給食に飯舘牛を使ったメニューを出したのがきっかけで、以来、平成13、14年度で８回、今年度も７、10、12月の３回、飯舘牛を使ったメニューを出しています。

給食センターの栄養士草野さんは「飯舘牛は他の牛肉に比べ、おいしいと子供たちに好評です」と話し、飯舘牛を使ったメニューの人気の高さを話していました。